

6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連		-	-
(北陸)		商店街（代表者）	・4月に開業する複合施設が、市街中心部の多世代交流施設であるため、訪問者による中心商店街への回遊を期待している。
		一般小売店〔鮮魚〕（役員）	・今後は、春の旅行シーズンに入ると更に観光客が増える。
		家電量販店（店長）	・先月からスタートしたプレミアムフライデーで、非常に客の動きが良い。来客数、購入単価共に前年を大きく上回っている。土日の実績には影響が出ていないので、効果が期待できる。
		観光型旅館（経営者）	・4月以降は大型団体の受注があり、夏までは前年並みか、それを上回ると見込んでいる。
		タクシー運転手	・これから春にかけて観光客が増える。ゴールデンウィークに向けて、特に週末を中心にタクシー需要が期待できる。
		住宅販売会社（従業員）	・客の動きが期待できる季節になり、来客数の増加が見込める。
		住宅販売会社（従業員）	・各社でイベントが増えて、客の動きが良くなっている。これからの建築件数、契約金額共に増加が期待できる。購入年齢層は徐々に若くなっているが、現在の金利が続けば今の水準で需要が継続すると考える。
		一般小売店〔事務用品〕（店員）	・人事異動に伴う備品の調達や、事務用品の新商品、季節商品の発売に期待している。しかし、会社全体の売上をけん引するほどの動きは見込めない。
		百貨店（販売促進担当）	・4月に市議会議員選挙が予定されており、政治不信感が先行き不安につながり、消費に影響しないかが懸念される。
		スーパー（店長）	・今は、客の流れで景気が上向きになっているが、このあと競合店の出店が予定されている。2月に1店舗閉店して、4月の終わりに1店舗増える。影響がプラスマイナスゼロとなることから、2～3か月先の状況は変わらないと考えられる。
		スーパー（総務担当）	・人員確保が厳しい状況が続いているが、大きな変動要素はないと考える。
		スーパー（経営企画）	・来客数、1人当たりの買上点数等の数値の推移は変わらない。消費市場の状況をもみても、賃上げ等で購買行動が良くなる様子が見えない。
		スーパー（店舗管理）	・競合店の出店が一巡するが、上がる要素は今後も見当たらない。昨年のような販促強化による数値の確保は厳しい見込みである。
		コンビニ（経営者）	・特に顕著に感じるのは、学生が買う量が明らかに減っていることである。コンビニエンスストアやドラッグストアで買う物を分けているように見受けられる。
		コンビニ（経営者）	・イベント日の天気のよし悪しによって売上が増減する。劇的に変わる要素、良くなる要素も悪くなる要素も全く見当たらない。
		衣料品専門店（経営者）	・土木建築業者からの話によると、受注は増えているが価格は大変に厳しいとのことである。大手や中堅のゼネコンは建設単価が上がって潤っているようだ。
		衣料品専門店（経営者）	・衣料品の回復の兆しは全く見えない。好転するまでには、まだまだ時間がかかりそうである。
		家電量販店（店長）	・特別なイベントがなく苦戦しそうである。
		家電量販店（本部）	・特別な景気対策がみられない。
		乗用車販売店（従業員）	・新型車の発売によって、新車販売の増加を見込んでいる。
	乗用車販売店（役員）	・今年夏後半までは現在受注している分で計画ベースは維持できる。しかし、夏以降は厳しくなるとみられ、平均するとより良い状況ではない。	
	その他専門店〔酒〕（経営者）	・4月は歓迎会や花見の時期だが、あまり期待はできない。	
	その他小売〔ショッピングセンター〕	・景気を刺激する要素が見当たらない。客は価格にシビアであり、必要以上に買わない。	
	高級レストラン（スタッフ）	・変化が起こるようなイベントがない。地方ではプレミアムフライデーを導入した企業がほとんどないのが現状である。	
	一般レストラン（店長）	・日によっては人手不足を感じている。地方でも景気が目に見えて上向くことを期待している。	
	一般レストラン（統括）	・仕入れコストが上がり始めてきたが、売価に転嫁できない状況である。人手不足による求人費の上昇など、売上高に対して利益確保が難しい。当面はまだ問題ないと考えるが、今後良くなる要因は今のところない。	

	都市型ホテル（スタッフ）	・北陸新幹線開業3年目の反動は特にはない。	
	都市型ホテル（役員）	・宿泊部門は、例年4月からの開通となる観光ルートの予約が例年同様に推移している。レストラン部門では、1店舗のリニューアル工事後に好調を維持しており、全体の客の動向も少し改善傾向にある。宴会部門では、昨年5月に環境大臣サミットの特需があり、それと比べて大型の会合が少ないものの、ホテル全体では大きく変わらない見込みである。	
	旅行代理店（所長）	・海外旅行の燃油サーチャージの料金アップによる影響や、国内旅行では話題性のある旅行先が乏しく、大きく需要喚起されることが見込めない。	
	タクシー運転手	・観光、行事の予約がある程度入っている。	
	通信会社（役員）	・商戦期が一段落して落ち着いてくるが、家庭用の光サービス契約が引き続き好調に推移すると考える。	
	通信会社（営業担当）	・販売量の増減がみられず、横ばいの状況が続いている。前年と比べても変わらない。	
	テーマパーク（役員）	・海外のインバウンド客は、まずまず堅調ではあるものの、国内の団体客、個人客の動きがやや鈍い状況にある。全体としては、今後も横ばいの状況が続くと考える。	
	競輪場（職員）	・売上は横ばいの状態が続いており、今後上昇する気配も要素も見当たらない。一方で、減少しそうな気配も感じられない。	
	住宅販売会社（営業）	・良くなる要因が見えない。上昇するイメージが持てない。	
	商店街（代表者）	・近隣に大型商業施設がオープンして、覚悟はしていたがやはり影響が出ている。数か月は影響を受けるのも仕方ないと落胆している。	
	一般小売店〔精肉〕（店長）	・周辺地域に大型店が出店するため影響が出る。	
	一般小売店〔書籍〕（従業員）	・原油高や円高が進んでいる。状況は悪くなるのではないかと考える。	
	百貨店（営業担当）	・地域最大級の商業施設が出来て、現在もそちらに客が流れている。しばらく影響を受けて苦戦が続くそうである。また、客は目的買いであっても色々な店舗を見て、比較して買う人が多い。財布のひもが固いのが現状である。	
	スーパー（店長）	・消費が回復する要素が見当たらない。	
	スーパー（総務担当）	・トイレトペーパー等の紙類、サラダ油等の値上げが予定されている。今後、更に節約志向が高まりそうである。	
	乗用車販売店（経営者）	・自動車関係の税金が見直されるので、新車販売は状況が悪くなる。	
	住関連専門店（役員）	・これまでもそうであったが、経済状況の不安定さや先行き不安等の要素から、消費および価格の二極化がより一層進むと考える。また、競合大手の顧客の囲い込みがより一層強まるため、これまで以上に競争激化へと進んでいく。	
	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・来客数は継続して堅調に推移するとみている。飲食や雑貨、サービスといった業種は堅調に推移するとみられるが、主要の衣料品業種については、競合店オープンから1年経過したが、今後も売上の回復が見込めない。客単価の低下が進み、全体の売上が漸減する恐れがある。	
	観光型旅館（スタッフ）	・3月以降の予約状況も前年比80%となっており、6月までは厳しい状況である。7月以降は回復傾向が出てきている。	
	通信会社（職員）	・新規サービスの拡充によって売上増が見込める。ただし、設備投資が大きく、減価償却が大きな負担となっている。	
	通信会社（営業担当）	・現状の販売が伸びすぎている。	
	通信会社（役員）	・大手通信事業者との競争が激化する中で、契約数増につながる要因が少ない。今後数か月は苦戦が続くと考える。	
	その他レジャー施設（総支配人）	・新年度に入って最も会員が動く時期に、競合施設が新規開業する影響は避けられない。	
	住宅販売会社（従業員）	・今後は資材の高騰に加え、人手不足がますます深刻になると考える。	
	×	スナック（経営者）	・内外情勢により変化がありそうで、不安定な状態にあると考える。
企業 動向 関連 (北陸)	-	-	
	食料品製造業（経営企画）	・販促活動を強化することで数字が上向くだろうと見込んでいる。	
	金属製品製造業（経営者）	・2～3か月先の受注の入り具合を見て、やや良くなると判断した。	
	一般機械器具製造業（総務担当）	・為替が比較的安定しており、今後は米国の設備投資の動きによって市場が活性化してくると考える。	

	通信業（営業担当）	・商品が複合して売れるようになってきた。顧客の課題を解決していくことで、更に需要が掘り起こされて商品が売れるという仕組みが発展してきた。営業の質が上がって景気が良い方向に向かっている。
	不動産業（経営者）	・同業者によると、個人、法人からも2か月くらい先の問い合わせがあるという。動きが出そうだという話がいくつかある。
	司法書士	・店舗や事業所の閉鎖跡でも買手は早く見つかる。会社設立等の開業関係の依頼が多い。
	繊維工業（経営者）	・海外、国内共にあまり良くない。現在、衣料については来春商品の開発試作中であり、その開発次第だと考える。
	繊維工業（経営者）	・受注環境は今後も厳しいと見込まれる。特に主力のスポーツ関連では国内、海外共に苦戦している。他の分野で何とか受注量を確保しているのが現状である。
	化学工業（総務担当）	・前年を上回る受注量のまま推移する見込みである。
	プラスチック製品製造業（企画担当）	・雇用情勢は堅調に続くと考え。しかし、海外、国内共に景気を押し上げる具体的な要因が見当たらず、当面は現状維持で推移すると考える。
	一般機械器具製造業（経理担当）	・海外向けの受注状況が、現状のまま引き続き好調を持続する見込みである。しかし材料不足、人材不足等で対応できず、納期を先延ばしにしている。今後は時期を逸することで受注の一部がキャンセルにならないか懸念している。
	精密機械器具製造業（役員）	・米国の新大統領就任以降、為替は一旦円安で落ち着きを見せていたが、ここにきて政策実施の不安定さも見受けられ、再び円高への懸念を感じる。
	建設業（経営者）	・年度初めの時期であり、例年同様に工事の発注は少ない。しかし、特別に悪くなる要因は見当たらない。
	建設業（役員）	・首都圏以外の地域では、今後、更に受注価格競争が激化するとみている。先行きの受注環境は厳しさを増すと考える。
	輸送業（配車担当）	・景気は現状のまま推移すると考えるが、問題となっているのが人材不足であり、特に運送業界のドライバー不足は日々深刻となっている。
	金融業（融資担当）	・依然として明るい見通しを語る経営者が多い。一方で円高への揺り戻し、米国の新大統領就任への期待や効果の剥落を懸念する輸出業者等も出てきている。将来の方向性について見極めが難しい局面である。
	新聞販売店〔広告〕（従業員）	・今月も売上が前年比を割った。前月程の落ち込みではないが、身の周りの景気が上向いているとは言い切れない。もうしばらく状況を見たい。
	税理士（所長）	・取引先に聞くと、今後3か月は大体堅調な状況が続くということである。しかし、その後の見通しについては、中小企業段階では分からない。建設業では、公共工事等が以前のレベルになかなか戻らず、見通しが厳しい。また、小売業では、消費者は当然安い商品に流れるため、品数の割には売上がつながらない状況が続いている。全体的には変わらないのではないかと考える。
	金融業（融資担当）	・国内の株式相場は、米国の新大統領就任による影響で少し上がっていたが、最近になって下落しており、これが消費の足かせになっている。建設会社の工事は、春以降の大型工事が少なく、景気浮上があまり見込めない。
	x	-
雇用 関連 (北陸)	人材派遣会社（社員）	・新年度の4月以降は、単発や短期の仕事がレギュラーで決まりそうである。景気の先行きに期待している。
	職業安定所（職員）	・自動車部品製造メーカーにより生産調整がなされるものの、バス、ガラス、ハーネス等の製造業から、2020年の東京オリンピックまで受注増が見込まれるといった声が多く聞かれる。
	民間職業紹介機関（経営者）	・年度が変わり、新しい事業のスタートで仕事量が増える。求人が次第に活発になってくることを期待している。働く人が増えることを一番に期待している。
	人材派遣会社（役員）	・新卒採用の時期で、しばらく新たな需要は見込めない。
	求人情報誌製作会社（編集者）	・大きな雇用の話が出てこない。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・先月の前年比較ともあまり変わらない状況で、安定していて大きな変化がないように見える。
	職業安定所（職員）	・仕事量は増加しているが、利益が少ないという事業所の声が多い。

	学校 [大学] (就職担当)	・企業の学生に対する採用活動は積極的で、昨年よりも早い時期から内々定が出ている。早めの人材確保に動いていることがうかがえる。ここに来てIT関連でも求人数が増えてきた。
	-	-
x	-	-